

役場職員に聞く

vol.1 公園を町活性化の原動力に

協力：建設課土木・公園グループ

安平町が行っている事業や政策など、町民の皆さんが利用することの多い場所や取り組みについてご紹介します。今回は、公園に関する業務について、建設課土木・公園グループの稲井さんに話を聞きました。

取材：地域おこし協力隊 木下知佳



この方に聞きました

稲井 勝さん

追分生まれ、追分育ち、現在も追分在住。「生まれ育った町で町民のために働きたい」と平成13年に旧追分町役場に就職。平成23年5月より建設課土木・公園グループに。

安心安全な公園づくりを

町内の公園は大小合わせて約20か所。主に、老朽化した遊具の修繕やキャンプ場の情報発信、運営に関する業務などを行っています。

住宅地の中に設置している小さな公園については、その地域の自治会や町内会と協働で草刈りの実施や「遊具安全パトロール隊」として、遊具の異常があった場合の連絡などをお願いしています。

今後は「子育て世代に選ばれるまち」として、子どもが安心して遊び、学べる環境を作っていくなくてはなりません。地域の皆さんの意見を参考にしながら公園のあり方を見直し、幅広い年齢層の方が利用しやすい「憩いの場」としていききたいですね。

来春オープン！体験型の遊び場「ポッポらんど」



来年4月下旬オープン予定の「ポッポらんど」イメージ図。滑り台は1年中楽しめる遊び場に。（平成28年度基本設計より）

現在、道の駅あびらD51ステーションの隣に「ポッポらんど」を整備中です。

柏が丘球場周辺を公園化するために平成30年～31年に工事をし、道の駅と同時オープン予定でしたが、震災で工事は中断。今年再開して来年4月下旬オープン予定で、体験型の遊び場となります。



ふわふわドームイメージ図

夏は子どもが遊べるふわふわドーム、冬はゴムチューブやスカイボード、そりを使うた雪滑りをメインに楽しめます。道の駅の裏側にはイベント広場が整備されて、ミニSSLの体験乗車ができるように。

来道者には、新千歳空港の近くで雪遊びが体験できる場所があると認知してもらえよう、SNS等で更なる情報発信を行っていく予定です。

安平町を「キャンプのまち」へ

キャンプ人気が高まり「手軽にキャンプを楽しんでもらいたいね」とグループで話すように。そこで、初心者や道具を持っていない人、道外から来た人といった客層に鹿公園キャンプ場やときわキャンプ場に

来てもらおうと「手ぶらキャンプ」を立案、今年6月からスタート。食べ物と飲み物以外の道具は用意している、気軽にキャンプを楽しめます。道の駅のプ

令和2年5月30日～9月30日 キャンプ場利用状況

利用数/利用者数	手ぶらキャンプ	持ち込みテント
鹿公園キャンプ場	91セット 389人	4,767張 8,088人
ときわキャンプ場	60セット 206人	2,994張 5,689人



キャンプ利用者の声をヒアリング。「改善すべき点を常に確認し、把握することが大事。より良いものを提供していきたいです」

ミニなどで少しずつ町外での認知度が上がり、お盆や連休以外にも土曜日の予約が全て埋まった日も。アンケートでは「また利用したい」とても便利だった」などの声をいただき、嬉しかったですね。

例年よりオープンしたのが遅かったにも関わらず、たくさんの方が利用があり、キャンプ場のニーズの高まりを実感しています。

これからもより良いキャンプ場となって利用者を増やしていくために、手ぶらキャンプでの食材提供やオートキャンプ化などが実行できるように指定管理者制度の導入を併せて検討していきます。安平町には、民間を含めて4つのキャンプ場があります。「キャンプのまち」と言えば安平町というキャッチフレーズがぴったりなまちにしたいですね。